

## はじめに

B.C. 2世紀末、武帝の領土拡張により、漢帝国の南縁（紅河デルタ平野）と東縁（朝鮮半島北部）一帯に郡県都市が設けられ、漢文化の強い影響を受けて地域文化と在地勢力に大きな変貌が発生し、新たに東アジア秩序が構築された。戦前、朝鮮半島の楽浪・帯方郡の考古学調査が行われ、漢文化の波及を示す墳墓・都市遺跡、また銅鏡・玉器・漆器など様々な出土品が知られている。一方、ベトナム史上の「空白」地帯と呼ばれる南縁地域における郡県都市の調査研究は大幅に遅れていた。筆者がベトナム国家歴史博物館の協力を得て、红河デルタ平野に残る古代城址と漢墓群の調査プロジェクトを2012年立ち上げ、対象遺跡の予備調査を二年実施した後に、レイロウ遺跡の発掘調査と学際的研究に関する日越考古学共同研究（筆者所属の東亜大学とベトナム歴博）の10年協定を交わし、現在も継続的に実施している。よって、南縁郡県都市の重要拠点である交趾郡/交州の実態を解明するための多大な新発見が得られた。

### 1. 交趾郡（州）治の所在地の認識

文献による交趾郡治（=政庁所在地）に関する記述に欠け、その所在位置も長い間不明であった。1980年代以降、ベトナム古代城址の調査が進み、交趾郡治（交州）の所在に関する推定は諸説あり、そのうち「古螺」・「龍編」・「羸隴」との3城址が有力視された。「羸隴」は、現北寧省順成県清姜社壘溪村に残る古城址で、今も地元では「LUY LAU（羸隴の古音）」と呼ぶ。20世紀末、ハノイ大学の考古学実習調査でこの城内遺構や土塁北壁の断面調査を行い、調査に参加した西村氏の著書ではこの古城址を当地の村名「壘溪・ルンケイ」と称している。2012-13年、本プロジェクトによる当地の古城址・漢墓・集落遺跡のGPS調査や表採遺物の時期区分、文献の解読を総合的に考察した結果、当地を交趾郡治の所在地と推定した（文献1）。この複合的な遺跡を古来の伝承地名「羸隴・LUY LAU」を因んで「交趾郡治・レイロウ遺跡」と名付けた。後に城内の発掘調査で漢の「萬歳」瓦、三国呉の人面文瓦や西晋の紀年文字磚、また「州」を銘記した南朝・隋代の文字磚（図1）、および「府」の1字を刻印した唐代白磁片も検出した。さらに、城郭東壁の外壁で魏晋期の交州長官である陶璜廟碑（文献2）も発見し、ここは交趾郡/交州の所在地だと裏付けた。

### 2. レイロウ発掘から中華周縁の地域史を読む

これまで、レイロウ城址の発掘調査は、六年連続で実施しており、交趾郡/交州の政庁都市の内・外二重構造とその変遷（漢～六朝・隋唐のI-IV期）を確認した。従来の認識を覆した発見が相次ぎ、とくに漢帝国崩壊後の3世紀頃に内・外城の拡大建設が実施されたことを判明した。また、2019年の外城南壁の発掘で、7世紀頃の土塁/濠、磚造りの暗渠を検出し、唐代初期にレイロウ城郭の改造・新築があったこと確認した。それは漢が政治的に「滅亡」しても、帝国の南縁で都市を中心に形作られた制度や建造物、整備された諸々の文明装置や技術までもが発展し続けたことを表明している。一方、レイロウ城内の発掘区からベトナム銅鼓の鑄型片（図2）、

鑄造関連遺物を大量に検出した。それによって、交趾郡治・レイロウの設置後、在地の文化が郡県都市と関係しつつ、漢～魏晋南北朝・隋唐期まで長期にわたって存続していたことも判明した（文献2）。漢帝国の郡県都市機構や仕組みは、盛時のみならず、分裂期の魏晋南北朝時代から隋唐帝国の成立に至るまで、中華帝国の「遺産」として南辺にも大きな影響や役割を果たしつつ来たことを明らかにした。こうして中国文明と周縁地域との併合・再編を経てその変容や受容などがもたらした相互関係が多様な地域社会発展の原動力となり、東アジア新秩序の形成を促した。

### 3. 红河デルタ平野における古代都市像の復元

交趾郡治・レイロウ発掘の出土品から中国本土との交流関係を窺い知るのみならず、東アジア・南アジアとの接点にも確認することができた。レイロウI期の城濠から漢の漆器（耳杯）、絹片が検出した。また、漢帝国東縁の楽浪土城の発掘に発見した「萬歳」の文字瓦、人面文瓦当を典型に漢式の瓦磚、陶器が南縁の交趾郡城にも大量に出土した。その他、内城中枢部の農地から南朝期の金銅仏の背光残片10数点も見つかった。これらの造形文様や製造技術は漢文化の伝播と受容を語るうえで重要な実物資料である。中にはドンソン土器の破片や「ドンソン・漢」と名付けた陶器片、特にドンソン系銅鼓の鑄型片など、在地性の強い遺物も多量見つかかり、漢文化と地域社会との融合性を見いだせた。さらに、南インド原産と見られるガラス小玉なども出土し、南海交易・海のシルクロードとの連結も示唆されるものである。

### おわりに

交趾郡治・レイロウの発掘から様々な考古学情報を抽出し、文献に記されていないダイナミックなヒトとモノの動きを確認することができた。漢式都市構造やインフラ技術が帝国の周縁地域においても、その影響力の強さを確認した。今後、これら出土遺物の考古学的検討と比較研究を推進し、外来文化の伝播と在地文化の変容の様相を解明すると共に、周縁の地域社会における文化伝統と捨象の歴史的意義を探る。

### <参考文献>

1. 黄曉芬編著 2014 『交趾郡治・レイロウ遺跡 I』 科研報告書
2. 黄曉芬編著 2017 『交趾郡治・レイロウ遺跡 II』 フジデンシ出版

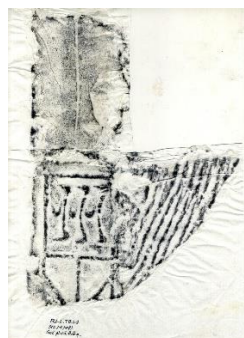


図1 「州」の文字磚  
レイロウ城址の出土



図2 ベトナム銅鼓の鑄型片  
レイロウ城址の出土